追記

上記のご参照の記事に記載されているように、アジア太平洋戦争中、日本兵は何も知り考えることなく、ただただ、生きて帰るのは恥とのみ思い込まされて犬死を強いられたのに対し、米国兵は戦場にあってもヘミングウェイやディケンズなどを読んで知り考え続けることで、平和の早い訪れを願いながら戦っていました。その落差に愕然とします（もっとも、かかる米国軍の「知り考える」という作風は２発の原爆投下によって破砕され、のち、朝鮮戦争やベトナム戦争といった戦後戦争においては、米軍は旧日本軍と落差ない「知り考えることのない」軍隊に堕落していきます)。